

2026

事業概要



国土交通省 近畿地方整備局
福井河川国道事務所

mission

福井の社会課題と向き合い、未来を再生する

質の高い河川・道路行政サービスを通じて、
県民一人一人の生命や財産を守り、安定的な社会経済活動が確保される
「真の地方創生」の実現を目指します

福井の社会課題

Social issues in Fukui

経済成長

県内総生産 (名目)



世界 福井県
2010年→2020年

人口動向

2050年人口 (推計)

人口 約25%減↓



高齢化率
約3割 → 約4割

災害リスク

気候



洪水リスク

県総人口のうち河川の
氾濫区域内人口の割合



全国 3位

全国平均 27.1%

持続可能な開発

CO₂ 排出量

道路利用 約1割

削減率 2013年→2021年
約23%減↓

※道路利用を含む運輸部門の削減
目標は35%

福井県特性

自家用車保有台数

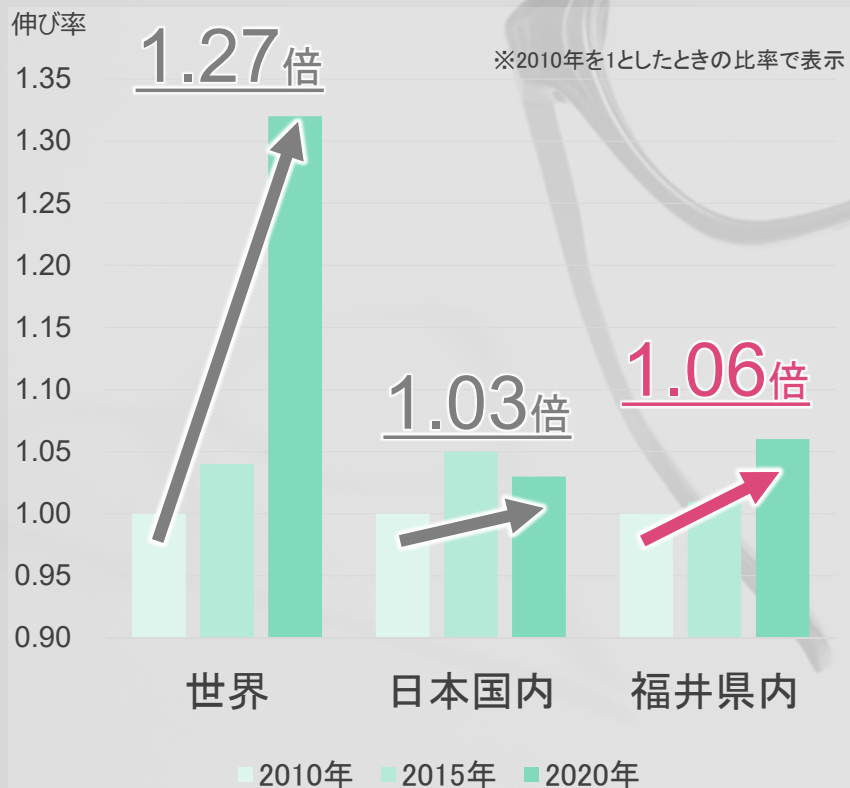
全国 1位

共働き世帯割合

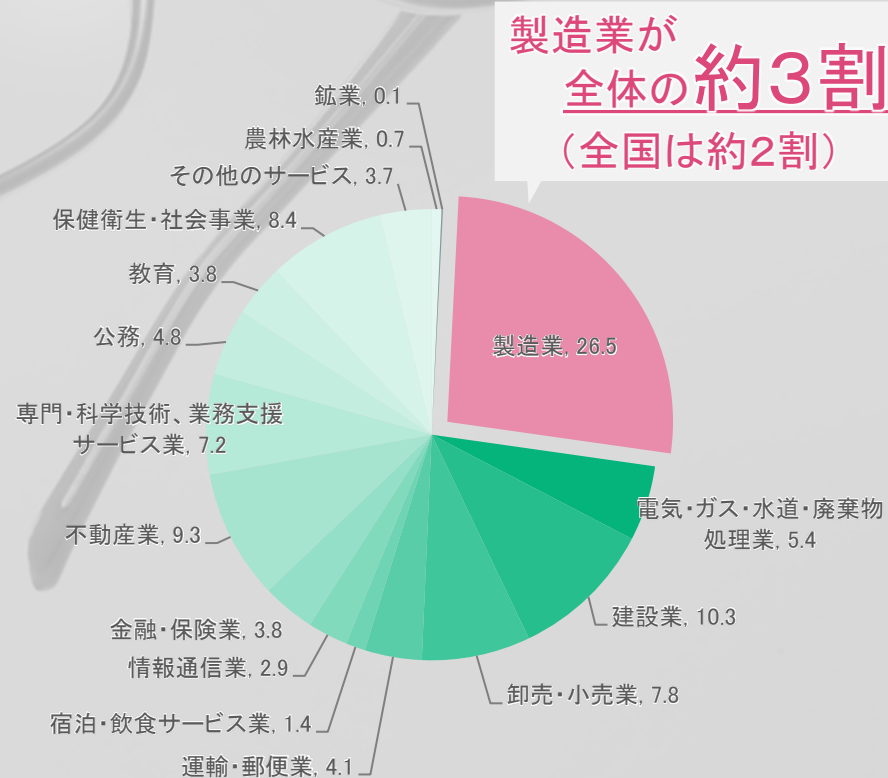
全国 1位

- 世界各国のGDP伸び率に比べ、日本国内の伸び率は相対的に低下
- ものづくりが盛んな福井県においても、国内と同様の傾向が見られる

国内及び県内総生産の変化



福井県内総生産の経済活動別構成比



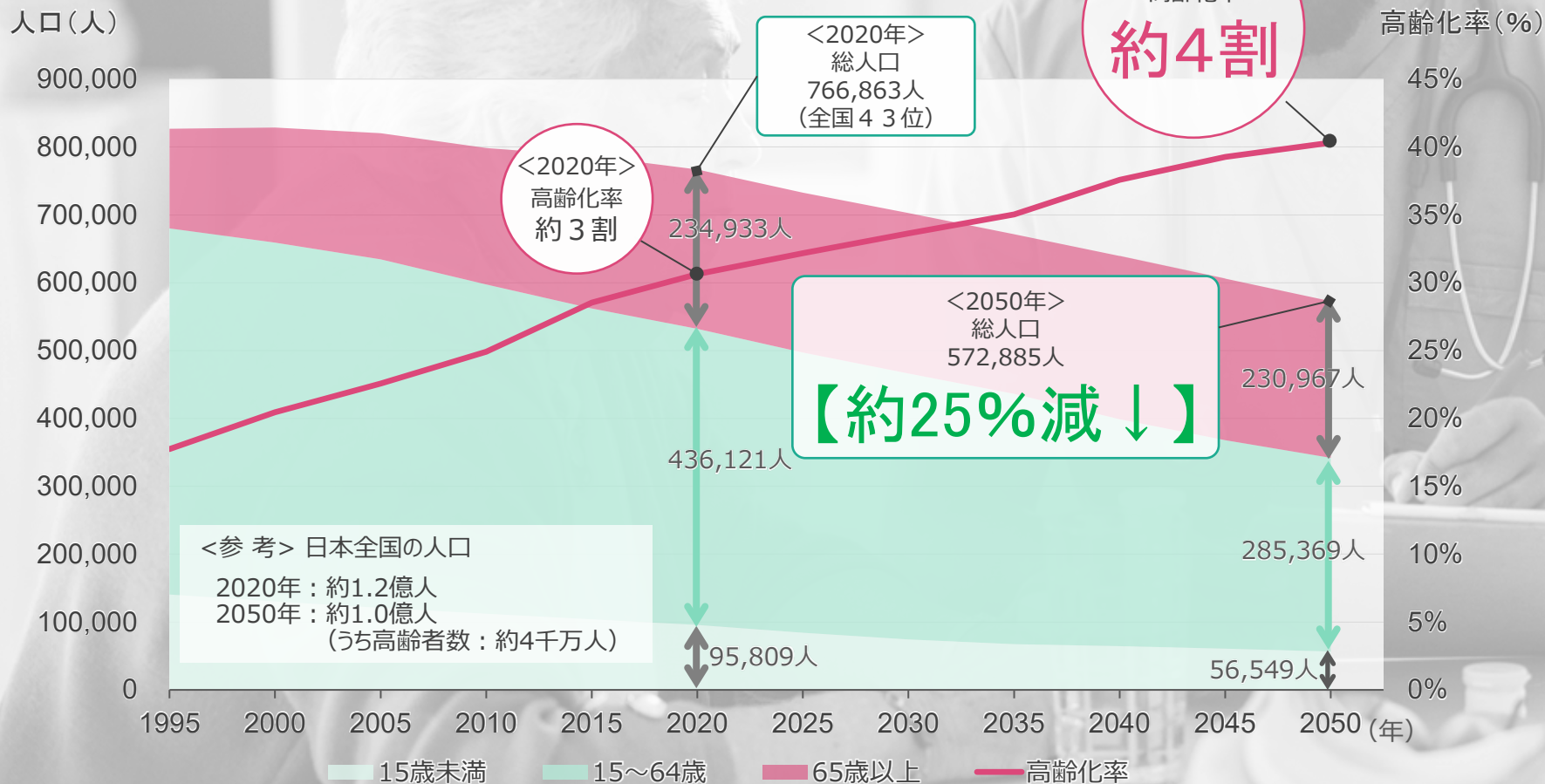
〔出典〕 国内および福井県の総生産は、内閣府；国民経済計算（GDP統計）を基に作成
世界の総生産は、世界銀行；Global Economic Prospects reportを基に算出

〔出典〕 内閣府；県民経済計算（経済活動別県内総生産）を基に作成

- 2050年、日本の総人口は約1億人に減少、うち高齢人口は約4千万人に増加
- 2050年、福井県においても、総人口は約57万人に減少し、うち高齢人口は約23万人となる

福井県の人口動向

※2020年以降は推計値



<参考> 日本全国の人口
 2020年：約1.2億人
 2050年：約1.0億人
 (うち高齢者数：約4千万人)

※人口に占める65歳以上の割合 (%)

[出典] H7~R2: 国勢調査

R7~R32: 国立社会保障・人口問題研究所; 「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」, 令和6年10月

- 福井県の年間降水量(1991年～2020年の平均)は2,299mmで全国7位
- 2022年8月の豪雨災害では、北陸自動車道、国道8号、国道365号等の道路や鉄道がすべて通行不可となり、嶺北と嶺南を結ぶ幹線交通網が寸断されたため、経済活動に大きな影響を及ぼした

2022年8月の豪雨による主要な被災箇所



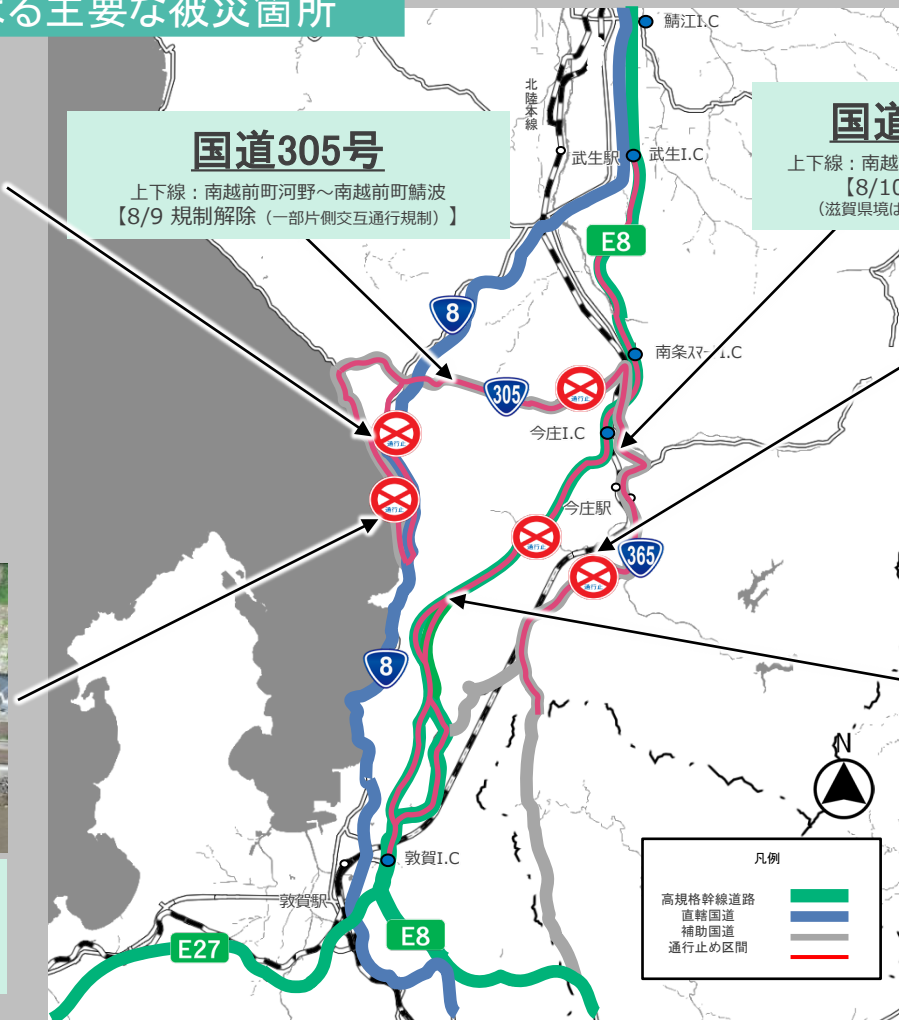
国道8号

上下線：南越前町桜橋交差点～敦賀市大比田交差点
【8/9 片側交互通行規制、8/20 規制解除】



しおかぜライン

上下線：南越前町河野～敦賀市大比田
【8/26 規制解除 (一部片側交互通行規制)】



JR北陸本線

上下線：敦賀駅～今庄駅
【8/11より運転再開】



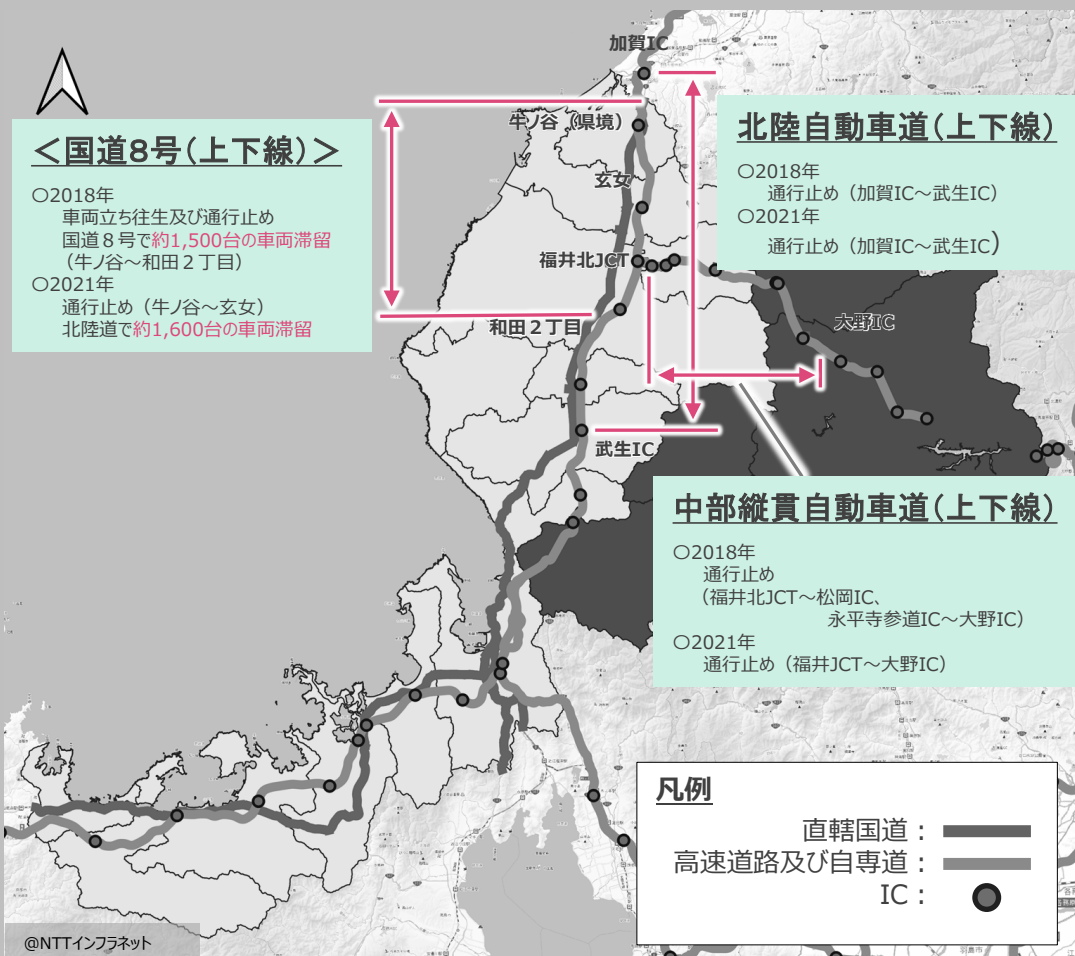
北陸自動車道

上り線：敦賀IC～武生IC
【8/10 規制解除 (8/19まで無料措置)】
下り線：敦賀IC～今庄IC
【8/27 規制解除】

〔出典〕被災状況、写真は福井県「大雨に関する災害対策本部会議」資料より引用

- 福井県の年間降雪量(1991年～2020年の平均)は186cmで全国7位
- 2018年、2021年は記録的な大雪となり、県内各地で車両の立ち往生や通行止めが発生し、物流が止まり生活物資が一時的に不足するなど、県民の生活に大きな影響を与えた

近年の豪雪時における道路規制状況



〔出典〕国土数値情報、豪雪地帯 (H28) をもとに作成

2018年豪雪時の立ち往生(国道8号)



① : 豪雪地帯

積雪が特に甚だしいため、産業の発展が停滞的で、住民の生活水準の向上が阻害されている地域

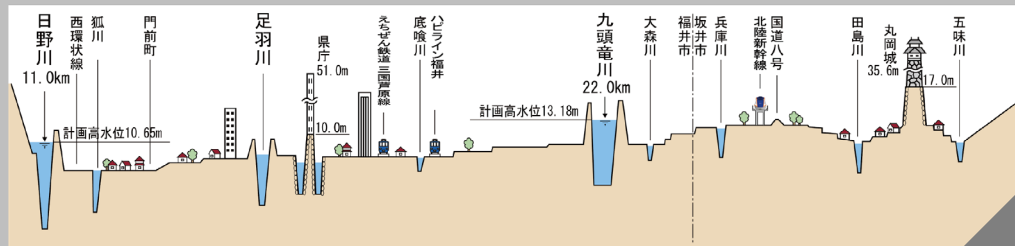
② : 特別豪雪地帯

豪雪地帯のうち、積雪の度が特に高く、積雪により長時間自動車の交通が途絶する等により住民の生活に著しい支障を生ずる地域

- 九頭竜川流域内の市町村には約67万人が生活し、流域中心には県庁所在地(福井市)が存在
- 福井市街地は九頭竜川、日野川、足羽川の3川に囲まれており、洪水時の河川水位より低い位置に市街地が広がる
- 氾濫が発生すると5m程度の浸水が広いエリアで発生し、浸水が1週間程度継続



A-A' 断面

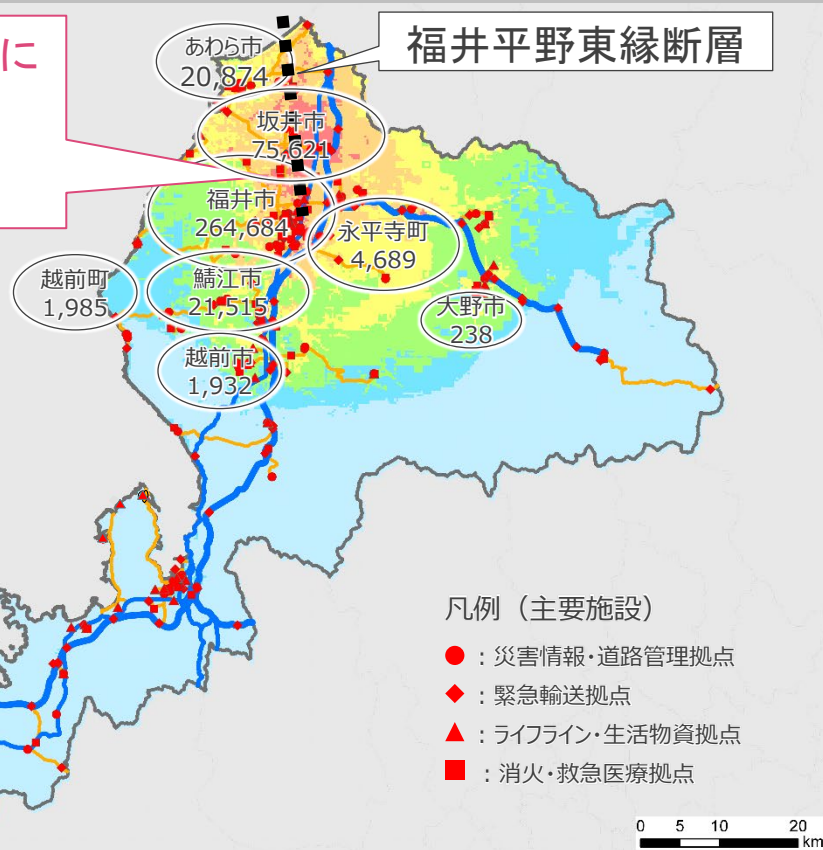


- 「福井平野東縁断層帯地震時」の震度6強以上が予測される地域に県人口の約51%が集中
- 嶺北地域では過去に、1948年に震度6、2020年に震度5弱の地震が発生
- 2024年1月に発生した能登半島地震では、あわら市において震度5強を観測し、道路陥没等の被害が発生

福井平野東縁断層帯地震の震度分布と曝露人口

震度6強以上の地域に
県内人口の
約51%

凡例 (地表震度)



能登半島地震によるあわら市の道路陥没

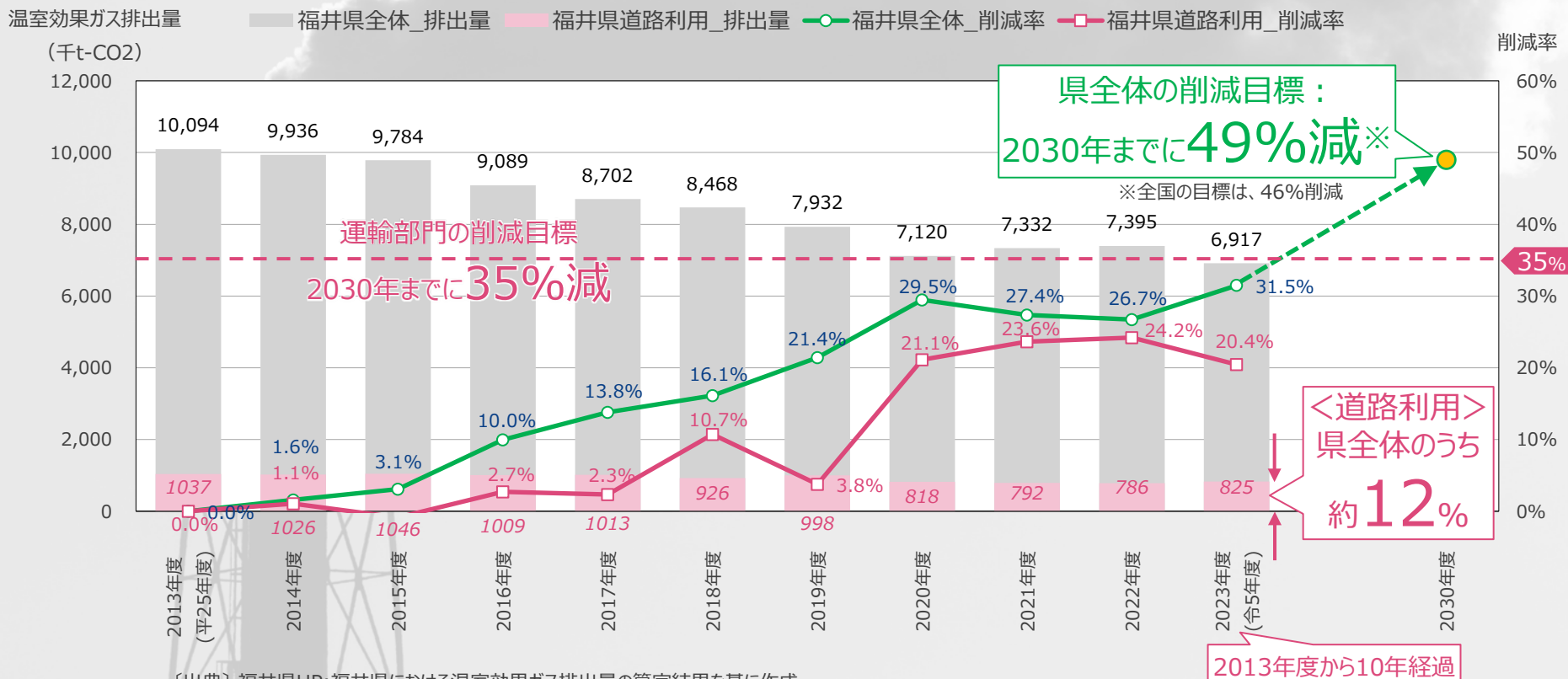


市道が陥没し、通行止め

(出典) 災害協定関西地区連絡会調査団 (地盤工学会)
「2024年能登半島地震による福井県の被害」

- 2050年のカーボンニュートラルに向けて、道路交通の適正化を図るなど、CO2排出量削減への貢献は必須
- 2023年度現在、県全体CO2排出量のうち、道路利用による排出が約12%を占めており、道路利用を含む運輸部門の2030年までの削減目標は、対2013年度比で35%減を掲げている

福井県における温室効果ガス排出量



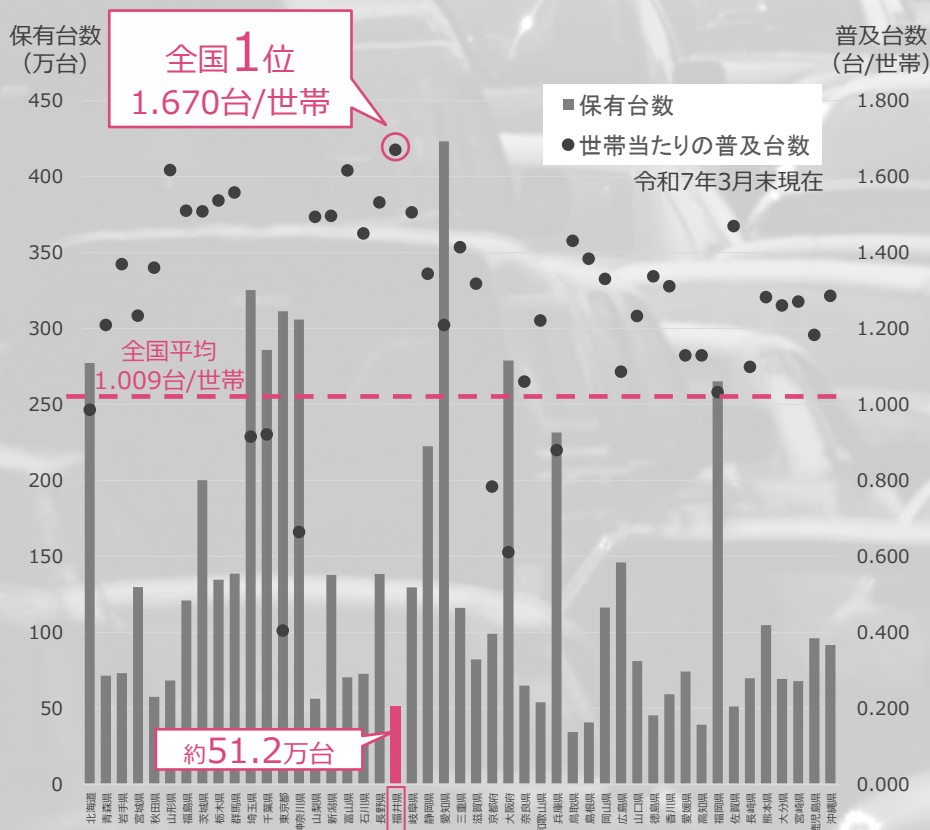
〔出典〕 福井県HP; 福井県における温室効果ガス排出量の算定結果を基に作成。

道路利用における温室効果ガス排出量は、燃料消費量（自動車燃料消費量調査）および燃料別の二酸化炭素排出量の例（環境省）をもとに算出。

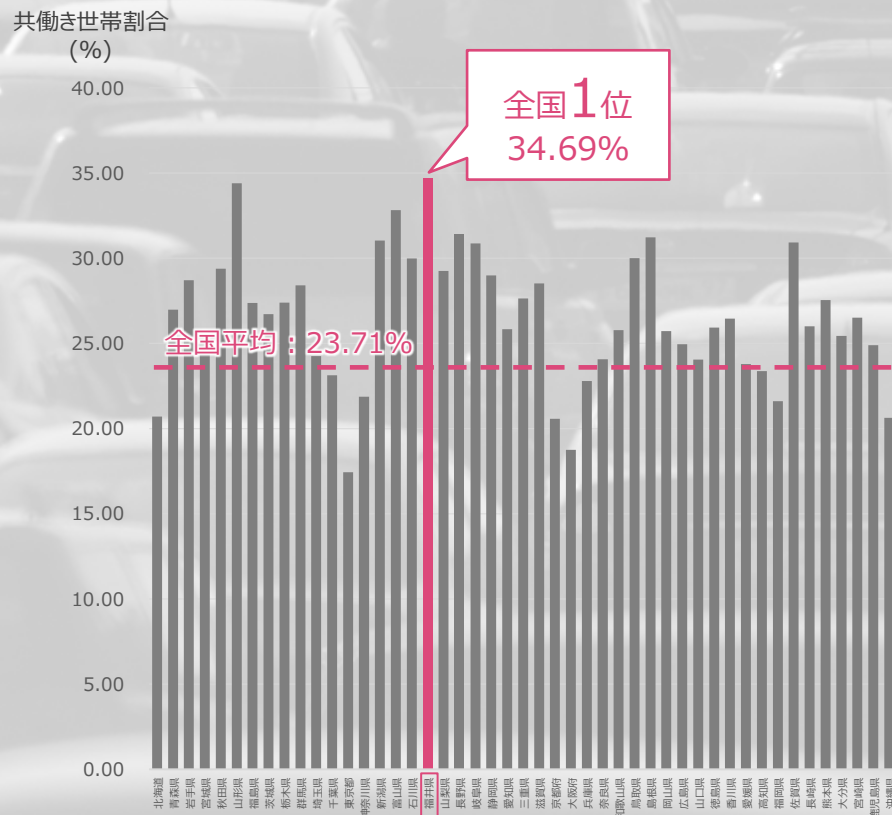
◆ 道路利用における温室効果ガス排出量の算出：
⇒ 燃料消費量(kℓ) × ガソリンの単位当たりの温室効果ガス排出量

- 福井県の自家用乗用車の保有台数は51.2万台で、世帯当たり普及台数は1.670台/世帯で全国1位
- 福井県は共働き世帯の割合が高く、夫婦それぞれが通勤や日常生活の移動手段として自動車を必要とする場合が多く、自家用車への依存度が高い傾向

自家用乗用車の世帯当たり普及台数



共働き世帯割合



〔出典〕一般社団法人自動車検査登録情報協会
;「自家用乗用車の世帯普及台数」,2025年8月25日

〔出典〕総務省;「令和4年就業構造基本調査」,2023年7月21日

河川の社会課題

River issues in Fukui

水害被害額

福井県の過去10年間



約**343**億円

※平成26年～令和5年（平成27年の評価額）

豊かな自然の保全・再生

九頭竜川

アラレガコの生息地

（天然記念物指定）

北川



4年連続

水質が最も

良好な河川に選定

四万十川や熊野川等全国20河川のうちのひとつ

多様な河川利用

県内のアユ遊漁者数

年間約**2.6**万人

鳴鹿大堰の取水

福井平野・
坂井平野の農業用水

約**65**%
を供給

福井市の水道用水

約**40**%
を供給

堤防の整備率



全国 北川 九頭竜川

※直轄管理区間（109水系）

施設の保全



直轄管理区間内施設数

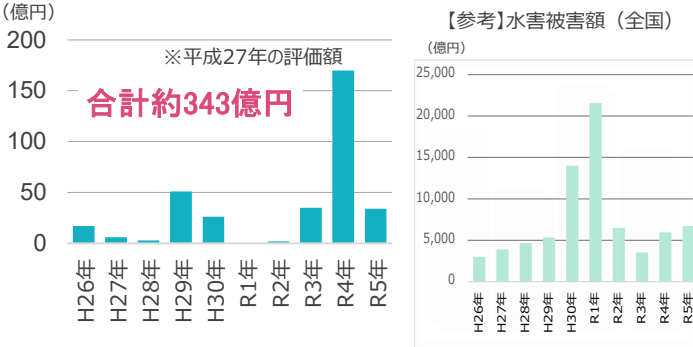
九頭竜川 **166** 施設

北川 **34** 施設

※施設：河川の水門、樋門等

- 福井県の過去10年間の水害被害額は約343億円で、県内各地で水害が発生
- 九頭竜川では、令和3年に支川の志津川、令和4年に鹿蒜川で堤防が決壊し甚大な被害が発生
- 北川では、平成25年に野木川で堤防が決壊し甚大な被害が発生

福井県過去10年間の水害被害額



九頭竜川水系の主な水害(過去10年間)

令和3年7月 志津川（福井市大森町地先） 破堤
床上浸水：9戸 床下浸水：25戸

令和4年8月 鹿蒜川（南越前町南今庄地先） 破堤
床上浸水：106戸 床下浸水：33戸

北川水系の主な水害(過去10年間)

平成25年9月 野木川（若狭町下野木地先） 破堤
床上浸水：34戸 床下浸水：83戸

野木川（若狭町下野木地先）

- 九頭竜川
 - ・ 下流域: ヨシ・マコモ群落等の抽水植物が水際に分布し、オオヒシクイ等の休息・採餌地
 - ・ 中流域: アラレガコ^①の生息地として国の天然記念物の地域指定を受けており、砂礫河原や瀬、淵が連続。砂礫河原はコアシサシやカワラハハコ等の砂礫地固有の動植物の生息・生育場
- 北川
 - ・ 2024年の水質調査の結果、全国の一級河川109水系のなかで水質が最も良好な20河川のうちのひとつに選出され、4年連続の選出

アラレガコ生息地としての天然記念物指定

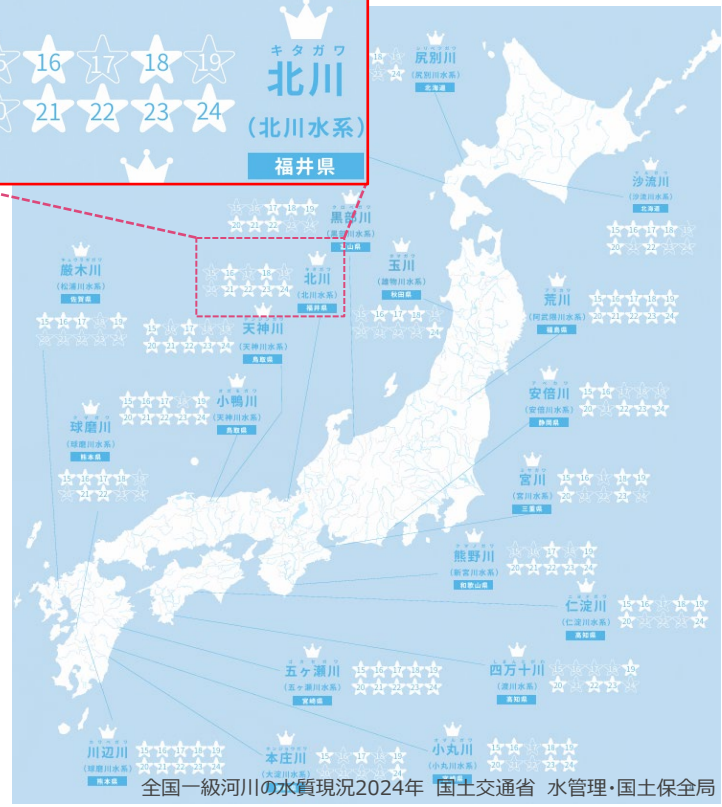


- ・ 指定区間: 福井市舟橋の中角橋 (17.8k付近) ~ 大野市花房の阪谷橋 (56.8k付近) まで
- ・ 指定日: 昭和10年 (1935) 年6月7日



北川の水質

北川は、過去10年間の調査において6回「水質が最も良好な河川」に選出



豊かな自然の保全・再生

【九頭竜川 下流域】

- 感潮区間となっており、ボラ、ズキ等の汽水魚や海水魚が生息。絶滅危惧種のカマキリ (アユカケ・アラレガコ) は11月頃降下し、河口付近や海域の沿岸で産卵。
- 水際にはヨシ・マコモ群落等の抽水植物が水際に沿って広く分布している他、高水敷は耕作 (主に水田) 利用され、ガンカモ類・カモメ類が水域で多く見られる。
- 国の天然記念物に指定されているオオヒシクイやコウノトリの飛来が確認。



下流域の水際 (ヨシ・マコモ)



オオヒシクイ

【九頭竜川 中流域】

- 福井市等の平野部を貫流している区間で、砂礫河原や瀬・淵が連続して形成され、アユやオオヨシノボリ、サクラマス等の通し回遊魚が生息・繁殖。
- 砂礫河原はイカルチドリやコチドリの生息・繁殖地、カワラヨモギ、カワラハハコ等砂礫地固有の動植物の生育・生息・繁殖地となる。



九頭竜川中流 24km付近



カワラハハコ



イカルチドリの卵



コチドリ

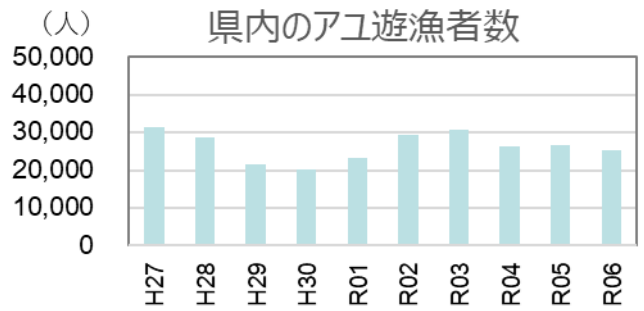
水質が最も良好な河川とは
 主要河川のうち、以下の両方の条件を満たす河川
 ① 対象河川各調査地点のBODの年平均値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/l (※1)
 ② 対象河川のBOD75% (※2) について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/l
 ※1: 環境省に定めるBODの報告下限値 (0.5mg/l)
 ※2: 測定データを小さい (水質が良好) のほうから並べ、0.75×データ数番目の値

多様な河川利用

River issues in Fukui

- 九頭竜川はアユをはじめとした釣りでの利用のほか水面を利用したカヌー等、高水敷でのマレットゴルフ、堤防でのサイクリングなど多様な形で利用
- 鳴鹿大堰で取水した水は、かんがい用水として福井平野・坂井平野(福井市、あわら市、坂井市、永平寺町の三市一町)の農地の約65%に供給しているほか水道用水として福井市の約40%を供給

人と河川との豊かな触れ合いの場



出典：資源管理の状況等の報告（福井県）
 ※入り込み客数については、日券の販売枚数1枚を入り込み客数1人として算出。
 年券については、年券の販売枚数1枚につき（年券の設定金額/日券の設定金額）を入り込み客数(人)として算出。

九頭竜川ではアユやサクラマスなど季節を通じて釣りが盛ん



アユ釣り(九頭竜川上流区間)

九頭竜川の自転車利用環境を活用し、「ドラゴンリバーライド2025」が開催

ドラゴンリバーライド 2025 6th

鳴鹿大堰の役割を学び、九頭竜川を自転車で走ってみよう!

参加無料 先着100名様

日時 2025 11.2 (SUN) 雨天延期 2025 10:00~16:30 (11.9 日祝)

プログラム 10:00~12:00 / 学習会 13:00~16:30 / サイクリング

コース全長 約22km (10km~30km)

九頭竜川沿いの河川敷を2箇所チェックポイントを通過しながら走り抜けるコースです。

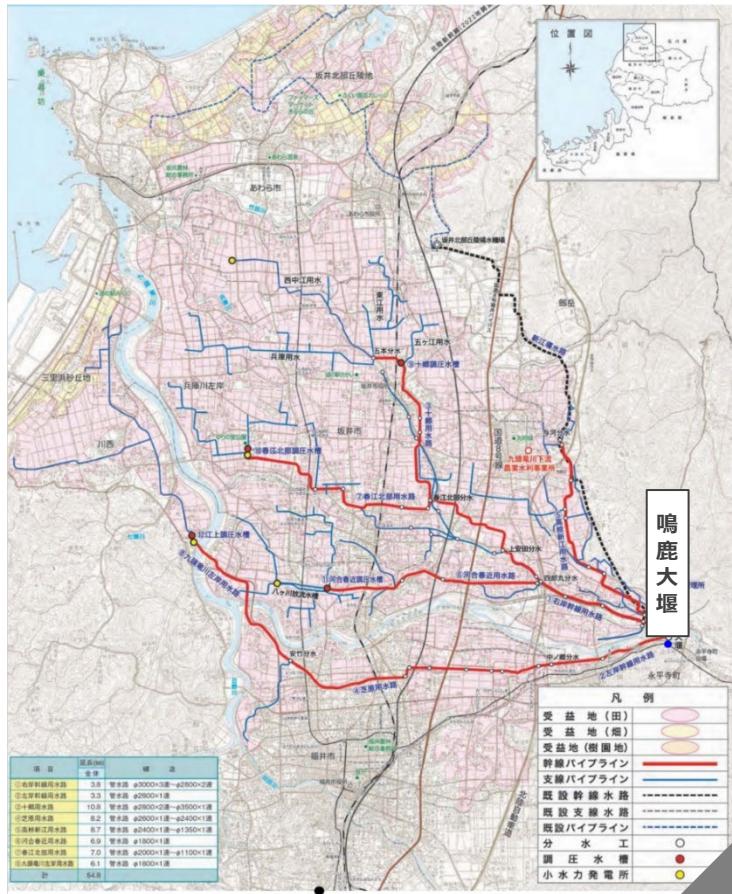
わくわくRiverCAN (九頭竜川環境センター) 1000円 (1人1台) (税込)

サイクリングコース (約22km)

九頭竜川の市街地周辺の高水敷では公園が整備され、イベントを数多く実施



鳴鹿大堰による河川水の利用(灌漑用水)



堤防の整備率

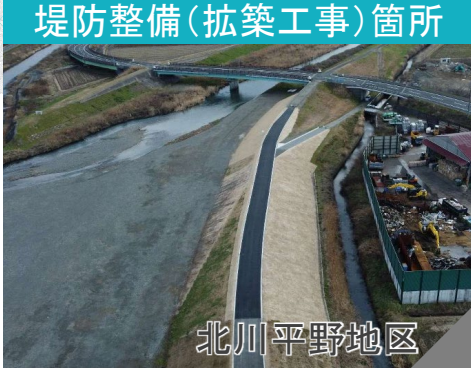
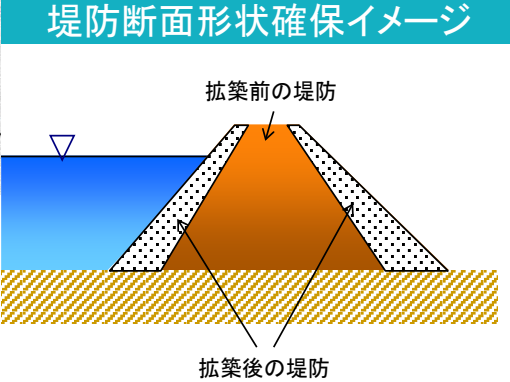
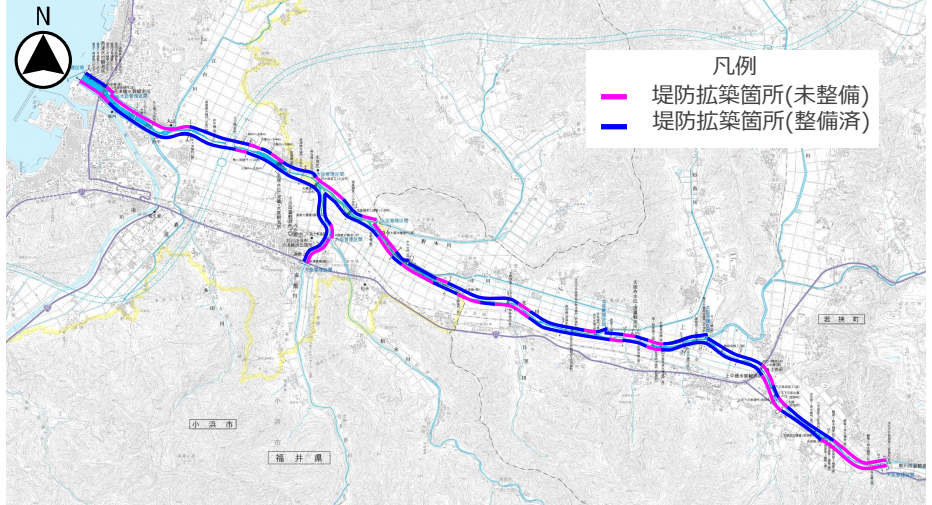
- 九頭竜川、北川では洪水を安全に流すための堤防整備を実施
- 九頭竜川、日野川では堤防が必要な78.0kmのうち47.2kmが整備済みで堤防の整備率は60.4%
(全国平均71.5% 一級水系89位/109水系)
- 北川、遠敷川では堤防が必要な30.0kmのうち21.2kmが整備済みで堤防の整備率は70.4%
(全国平均71.5% 一級水系65位/109水系)

※数値は令和7年3月末現在

位置図(九頭竜川・日野川)



位置図(北川)



※ 堤防の整備(堤防拡幅)とは本来堤防が有すべき計画の断面積(高さ・幅含む)を満足していない堤防について、盛土等を施し、計画断面を築造する整備

- 九頭竜川河川管理施設のうち完成年不明を除く施設121施設に対し、施設完成後40年以上を経過した施設は83施設で、全体の69%となり施設の老朽化が進行
- 北川河川管理施設のうち完成年不明を除く30施設に対し、施設完成後40年以上を経過した施設は25施設で、全体の83%となり施設の老朽化が進行。

老朽化する河川管理施設

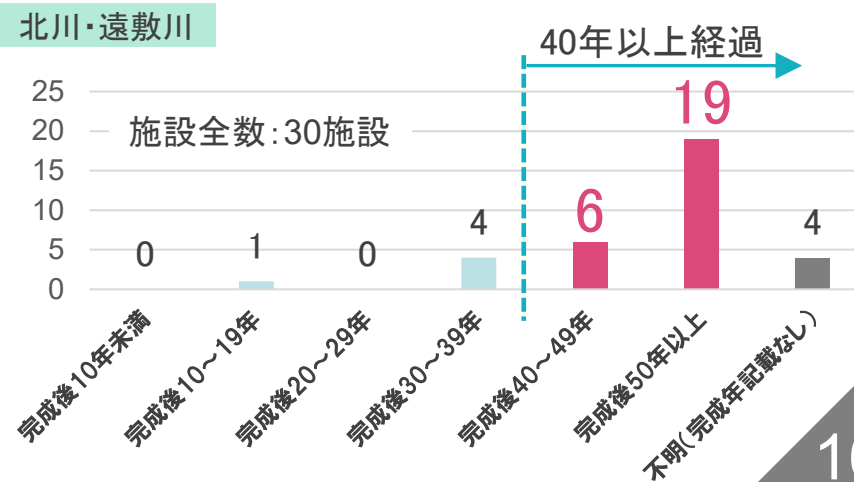
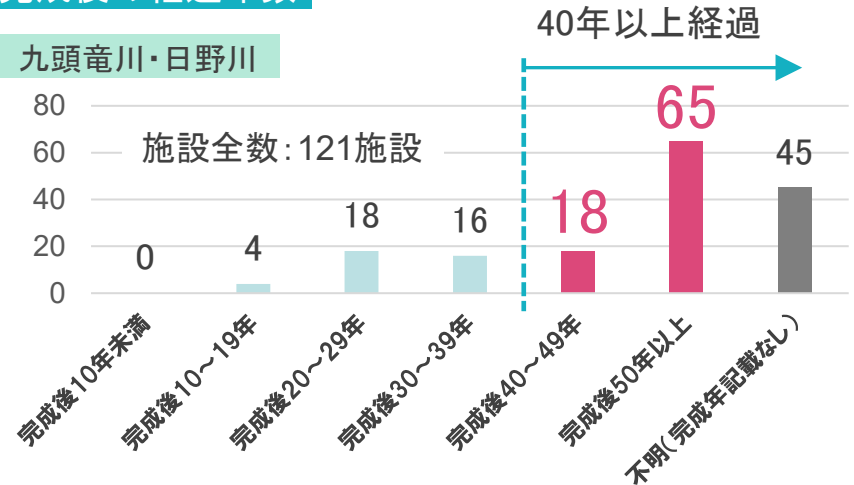


樋門本体の老朽化(九頭竜川 許可工作物)



樋門ゲートの老朽化(片川放水路樋門4号ゲートの腐食)

完成後の経過年数

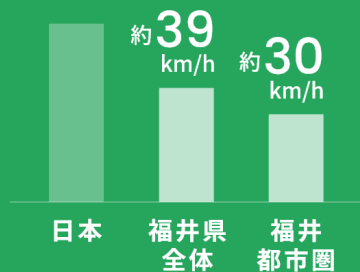


道路の社会課題

Road issues in Fukui

都市間連絡速度

平均 61 km/h



※都市間移動のサービスレベルに着目

渋滞による時間ロス

最低限必要な
移動時間

61%
(0.8億人時間)

福
井
県

渋滞などで
損失している
時間

39%
(0.5億人時間)

旅行速度のメリハリ (閑散時)

福井都市圏

約 20 ~ 50 km/h

欧米諸国

約 35 ~ 100 km/h

※閑散時旅行速度…
交通需要の影響をほとんど受けていない時間帯の
旅行速度 (福井の場合AM2時)

- 福井県の都市間移動のサービスレベルは約39km/h
- 特に、嶺北地域では約36km/h、福井都市圏(福井市～坂井市)では約30km/hであり、県内でも低い状況

福井県内の都市間移動のサービスレベル

・都市間の最短距離を最短所要時間で除したもの

<最短所要時間>
ETC2.0プローブデータ(2023年10,11月)における平日昼間12時間のうち所要時間が最も短い時間帯での平均所要時間

福井県
約**39**km/h (約37km/h※)

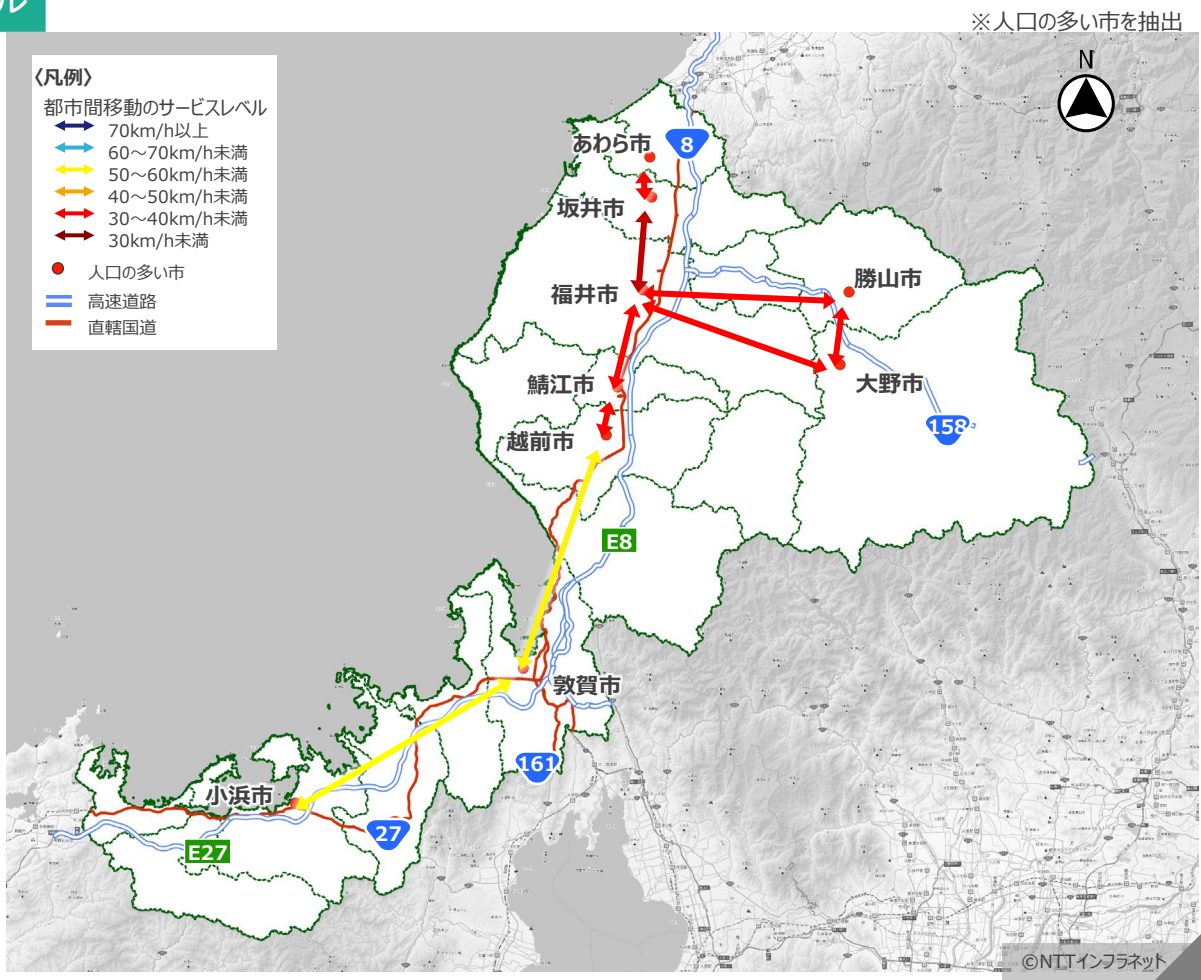
福井県嶺北地域
約**36**km/h (約33km/h※)

福井都市圏
(福井市～坂井市)
約**30**km/h (約27km/h※)

※都市間連絡速度(福井県、福井県嶺北地域、福井都市圏)

最短所要時間の算出にあたっては、ETC2.0プローブデータ(2023年10,11月)の平日昼間12時間の平均所要時間を採用

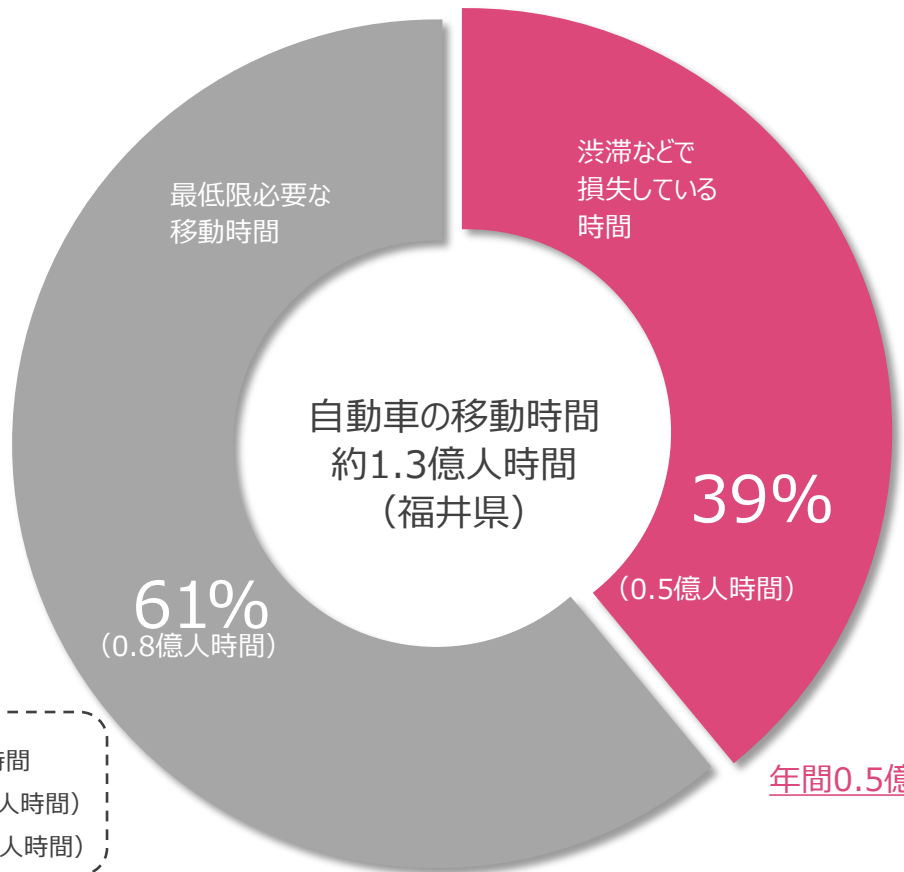
(参考)日本全体: 61km/h



〔出典〕ETC2.0プローブデータ(様式2-3), 2023年10,11月の平日平均, (市道は算出対象外)

- 車の移動時間の約4割が、渋滞による時間ロス(年間0.5億人時間)
- これは、約2.7万人分の労働時間に相当(渋滞による時間ロスに伴う経済損失が顕著)

福井県の渋滞による時間ロス



年間0.5億人時間、約2.7万人分の労働時間

全国の移動時間

自動車の移動時間	: 約149億人時間
最低限必要な移動時間	: 59% (88億人時間)
渋滞などで損失している時間	: 41% (61億人時間)

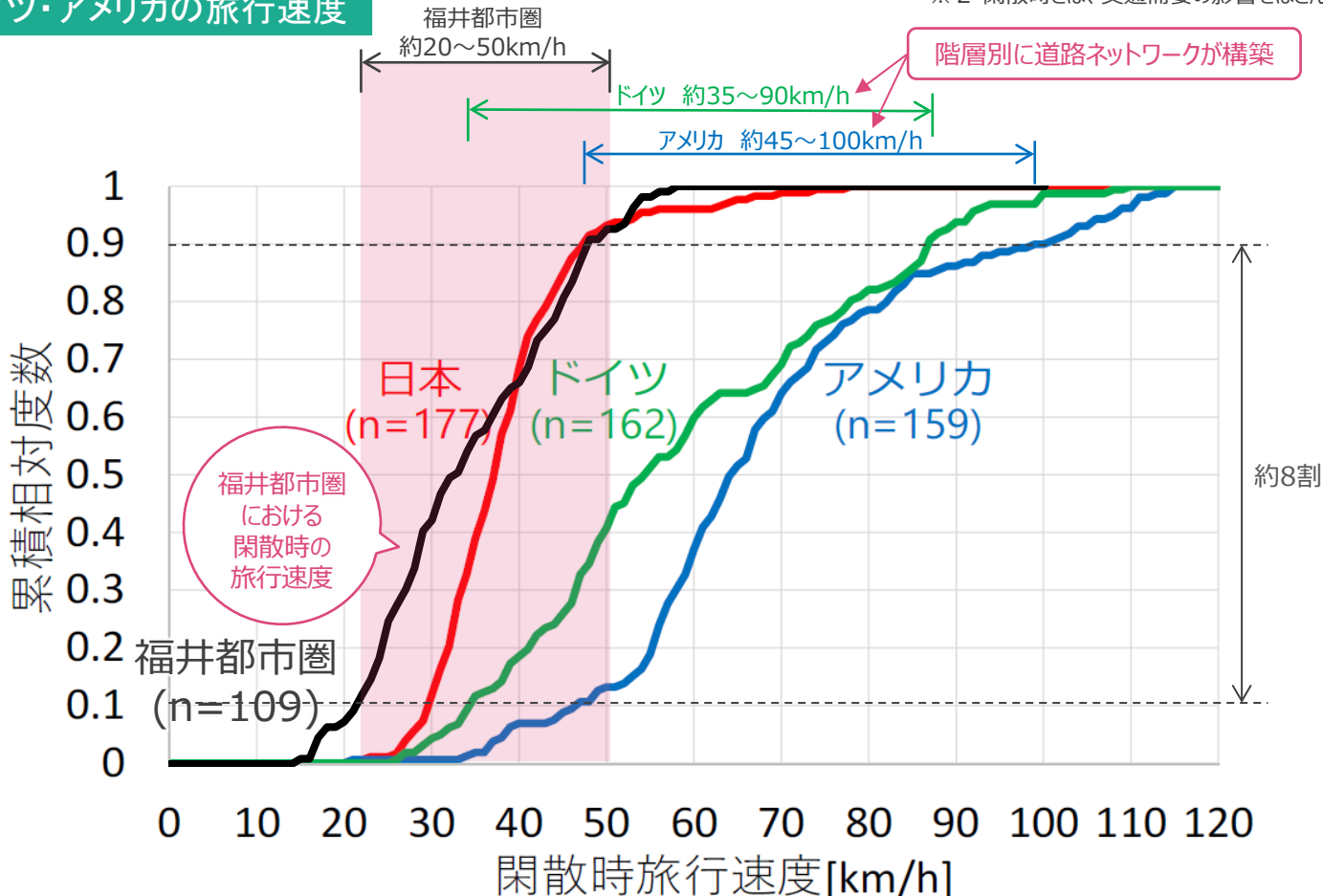
〔出典〕 WISNET2050・政策集

※福井県の自動車の移動時間は一般道のみを対象として算出
昼間12時間(7時~19時)で集計
1日の労働時間を8時間、平日を土日祝を除いた246日(R3年)で算出

- 日本※¹では、欧米と比較し、閑散時※²の旅行速度が低い特徴がある
- 欧米では、旅行速度が低速度帯から高速度帯まで一定の幅で分布しており、市街地部と郊外部で速度が明確に分かれていることから、機能階層別に道路ネットワークが形成
- 一方で、日本は、速度帯の幅が狭く、低いため、求められる本来の道路機能が発揮されていない

※ 1 日本の閑散時旅行速度は、愛知県内道路から算出
 ※ 2 閑散時とは、交通需要の影響をほとんど受けていない時間帯

日本・ドイツ・アメリカの旅行速度



〔出典〕「稲本・張・中村；国内外の幹線道路における閑散時旅行速度差の要因分析,第43回交通工学研究発表会論文集, 2023」に一部加筆, 2023

福井河川国道事務所が目指すべき方向性



福井の社会課題と向き合い、未来を再生する

流域総合水管理

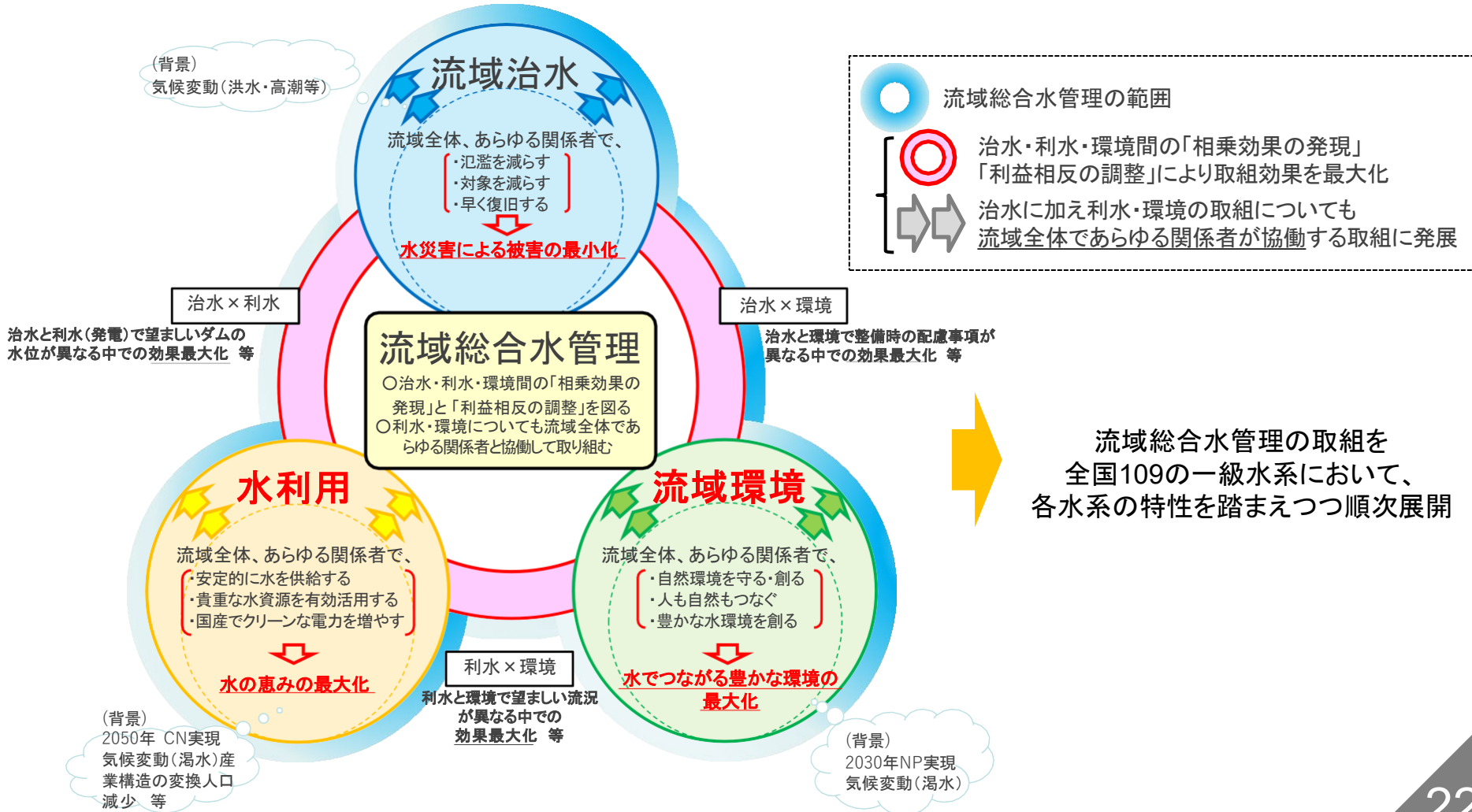
治水・利水・環境間の
『相乗効果の発現』
『利益相反の調整』
による水の恵みの最大化

ワイズネット
WISENET
— 2050 —

『量』から『質』へ
道路のサービス水準向上に向けた
新たな取り組み

流域総合水管理への展開 ~流域治水・水利用・流域環境の取組の効果を最大化~

- 治水に加え利水・環境も流域全体であらゆる関係者と協働して取り組むとともに、治水・利水・環境間の「相乗効果の発現」「利益相反の調整」を図るなど、流域治水・水利用・流域環境の一体的な取組を進めることで「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」を実現させる「流域総合水管理」を推進する。



『量』から『質』へ ～道路のサービス水準向上に向けた新たな取り組み～

- 日本を取り巻く社会課題は、福井県内でも大きな課題となっている
- 道路分野に目を向けると、“都市間連絡速度”や“時間ロス”、“欧米諸国との旅行速度帯の乖離”等、多くの課題をかかえる
- このため、^{ワズネット}『WISENET2050・政策集』を踏まえ、国道8号をはじめとする福井都市圏の道路の渋滞解消など、地域の社会課題の解決を図るため、最新のデータを活用した道路交通の旅行速度の実状把握・分析、求められるサービス水準、それらを踏まえた新たな対策などについて検討を行い、福井県内の社会課題解決を目指す



WISENETの要点

＜シームレスネットワークの構築＞
サービスレベル達成型の道路行政に転換、シームレスなサービスを追求

福井県の社会課題

経済成長

県内総生産 (名目)

2010→2020
1.06倍
＜世界＞ 1.27倍

人口動向

2050年人口^{推計}

人口 **約25%減**
高齢化率 **約3割 ▶ 約4割**

災害リスク

気候

年間降水量 **全国7位**
年間降雪量 **全国7**位**

持続可能な開発

CO₂排出量

道路利用 **約1割**
2013年→2021年 (削減率) **約23%減**
※道路利用を含む運輸部門の削減目標は35%

福井県特性

自家用車保有台数

全国1位
共働き世帯割合 **全国1位**

福井県内道路の課題

都市間連絡速度

※都市間移動のサービスレベルに着目

福井県全体 **約39 km/h**
福井都市圏 **約30 km/h**
＜日本＞ 平均 **61 km/h**

渋滞による時間ロス

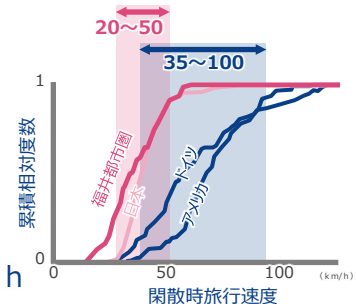
福井県全体 **約39%**
〔 県民の年間労働時間 約2.7万人分に相当 〕
＜日本全体＞ **約41%**

最低限必要な移動時間 **61%** (0.8億人時間)
渋滞などで損失している時間 **39%** (0.5億人時間)
福井県

旅行速度のメリハリ

(閑散時)

福井都市圏 **約20~50 km/h**
欧米諸国 **約35~100 km/h**

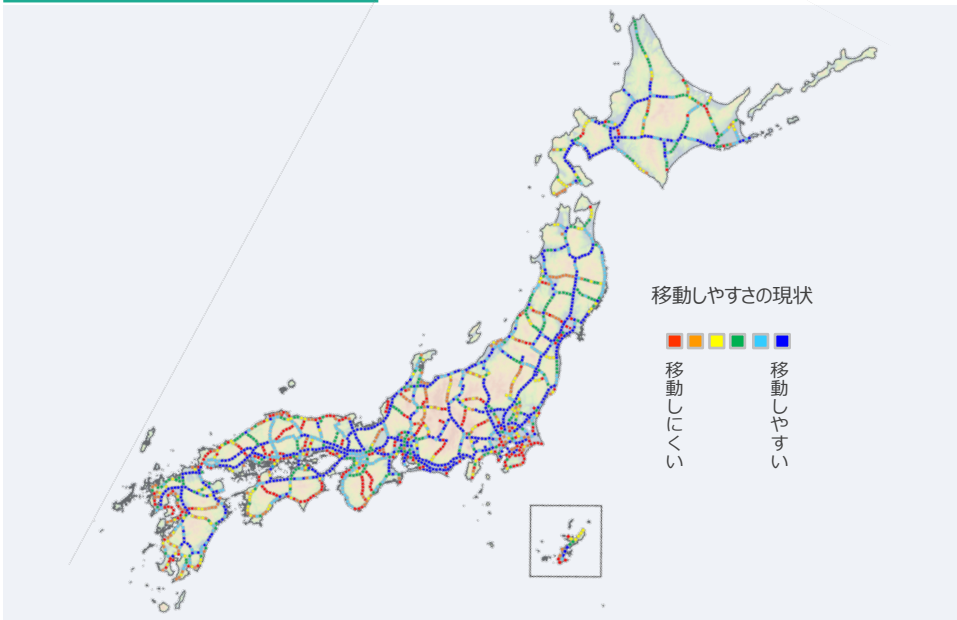


※閑散時旅行速度→交通需要の影響をほとんど受けていない時間帯の旅行速度 (福井の場合 AM2時)

○ サービスレベル達成型を目指し、シームレスなサービスが確保された高規格道路ネットワークを構築

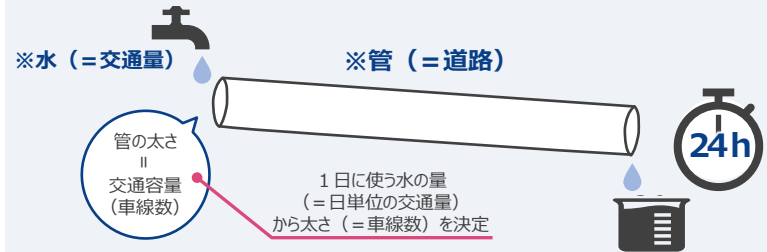
- これまでの道路は、増大する交通需要に対応し、道路ネットワークを早期につなぐこと（量）が求められてきたが、造られた道路に目を向けると、走行速度のサービスレベル（質）が確保できていない課題が顕在化
- ✓ 量が求められた時代は、日単位・上下線合計の将来交通量から車線数を決定する画一的な手法で道路を設計
- ✓ しかしながら、特定の時間帯や箇所の渋滞による生産性低下や環境負荷、暫定2車線区間等での速達性・定時性の低下などの課題が顕在化
- 今後は、本来求められる道路のサービスレベルを達成するため、シームレスなサービスが確保された高規格道路ネットワークを構築

サービスレベルの現状



これまで

▶ 日単位（24h）の将来交通量（上下線合計）から『交通容量（車線数）』を決定



サービスレベル向上に必要な視点

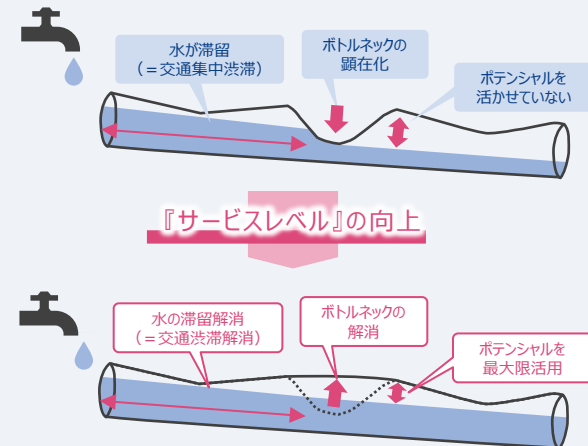
新たな道路計画

時間単位（1h）交通量
方向（上下線）別
箇所別
閑散期の速度

道路環境

沿道立地（乗入れ）
交差点・信号
速度低下箇所 (トンネル出入口) (凹サグ、凸クラウン)

これから



事業紹介



道路改築事業 ~2026事業内容~



各事業の概要・整備効果等については、
QRコードから事業概要パンフレットをご覧ください。

<凡例>

事業名

延長
km

2026年度事業内容

QR
コード

おののあがらぎか
大野油坂道路

15.5

<九頭竜・油坂区間>
調査設計
公共施設補償等
改良工事
橋梁上下部工事
トンネル工事
トンネル・道路設備工事
舗装工事



国道365号 栃ノ木峠道路

2.9

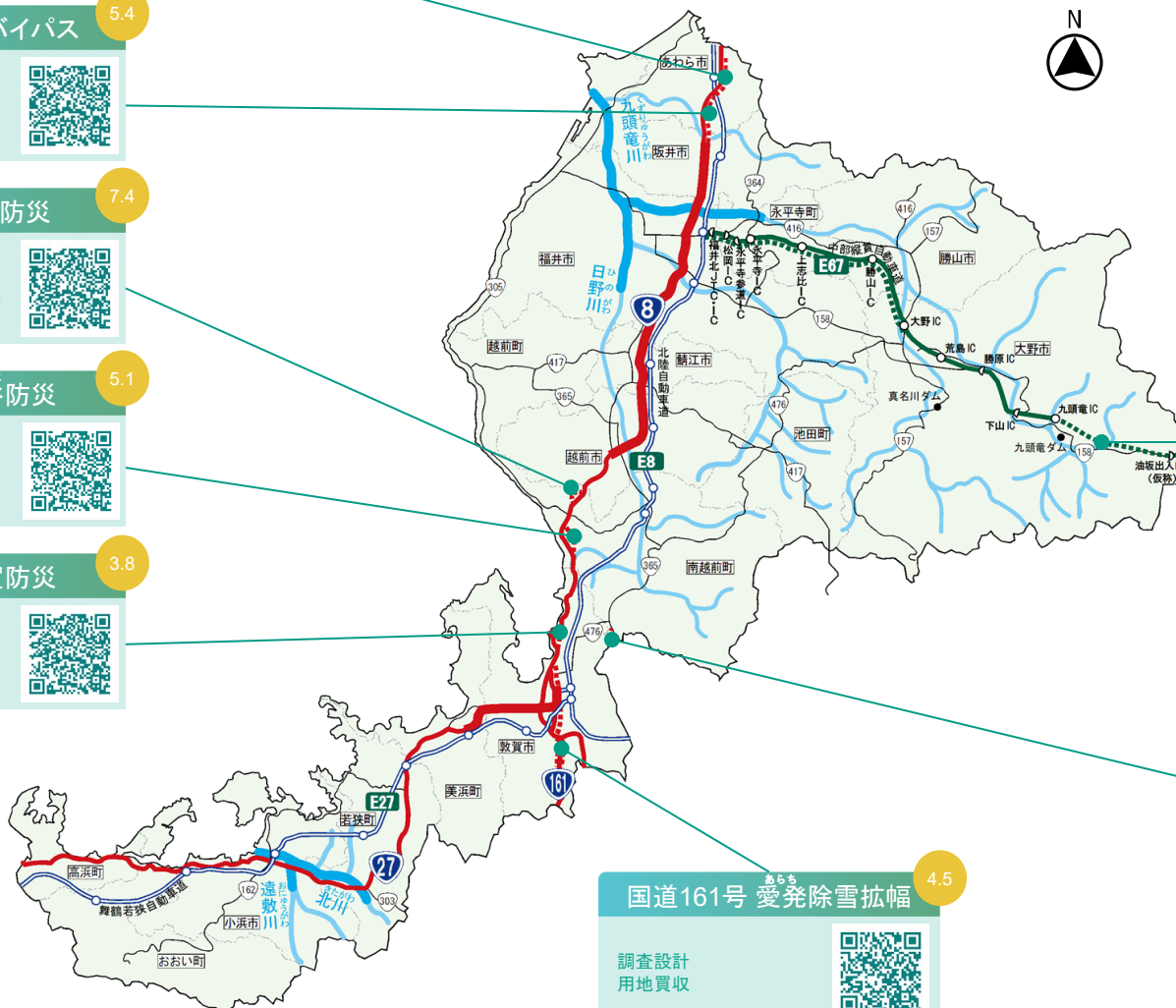
調査設計



国道161号 愛発除雪拡幅

4.5

調査設計
用地買収



国道8号 金津道路

4.3

調査設計
用地買収



国道8号 福井バイパス

5.4

調査設計
改良工事



国道8号 8号防災

7.4

調査設計
橋梁下部工事(具谷地区)



国道8号 大谷防災

5.1

調査設計



国道8号 敦賀防災

3.8

調査設計
用地買収
改良工事(五幡地区)



交通安全事業 ~2026事業内容~

<凡例>

延長
km

事業名
2026年度事業内容

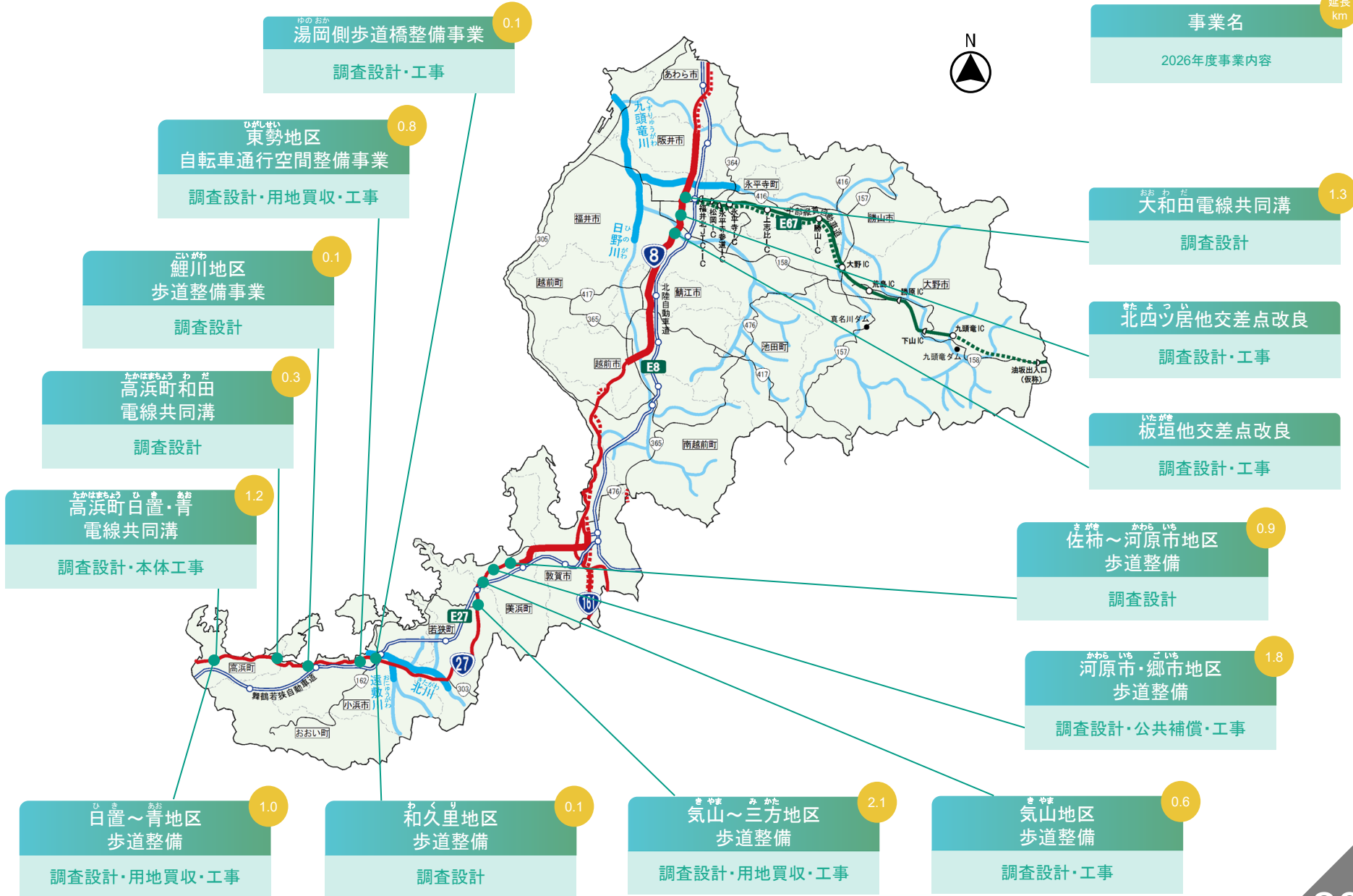
事業名	延長 km
大和田電線共同溝	1.3
調査設計	

事業名	延長 km
北四ツ居他交差点改良	
調査設計・工事	

事業名	延長 km
板垣他交差点改良	
調査設計・工事	

事業名	延長 km
佐柿~河原市地区 歩道整備	0.9
調査設計	

事業名	延長 km
河原市・郷市地区 歩道整備	1.8
調査設計・公共補償・工事	



スピード

カーボンニュートラル

先進的な取り組み事例

AI

ビッグデータ

人手不足

激甚化

AI

高度化

先進的な取り組み事例

ETC2.0プローブデータの可視化による交通流動の把握

近畿地整管内唯一の取り組み



AIを活用したトンネル照明制御

近畿地整管内初導入 (R5.10～)



トンネル照明制御の概要



大野油坂道路下山トンネルに導入



AIを活用した流入予測による堰操作

令和6年度～ 導入

3時間先の流入量把握

適切なタイミングの放流

利水者への影響の最小化



道路除雪におけるデジタル技術の活用

近畿地整管内初導入 (R5年度)

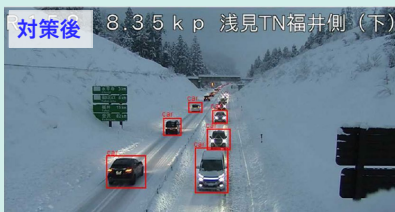
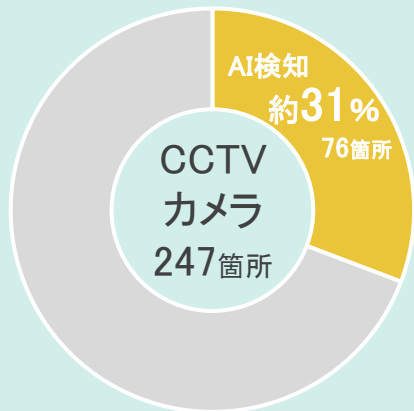
モニターに雪のない道路状況を表示

技術者不足の支援



災害対応 ～先進的な取り組み事例～

AI検知機能によるスタック車両の早期発見



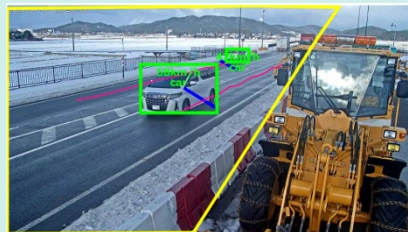
AI交通障害自動検知システム導入率
(R8.3 福井河川国道事務所管内)

死角部への対応(可搬式AIトラカンの導入)

交通量測定
(車線別・車種別)

速度測定

リアルタイム
遠隔監視



近畿地整管内初導入(R5年度)

死角部スタック車両検知に活用(R6年度～)



SNSを活用した情報収集

SNS(X)上の様々な危機情報をAIでリアルタイムに解析し、正確な情報を配信、被害情報を可視化するSNS情報収集アプリを導入

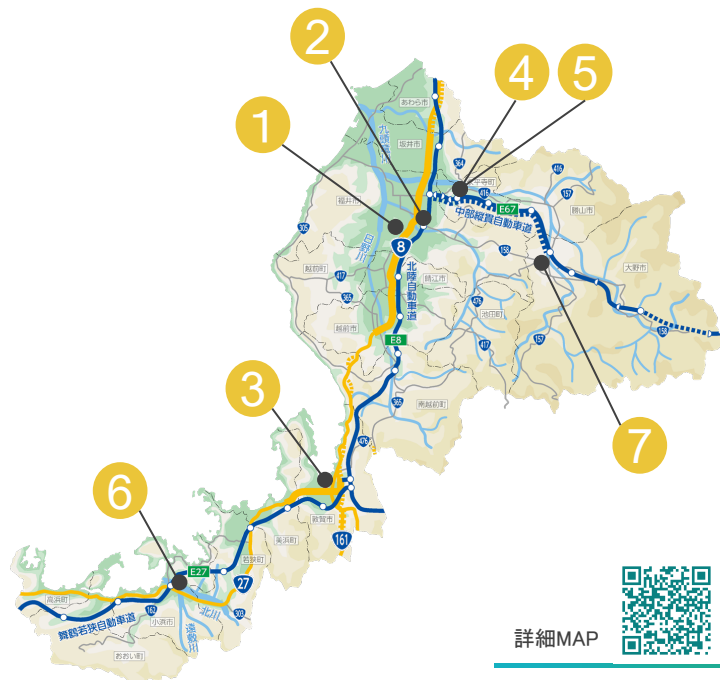
速やかに情報や意見を収集することで、初動対応を迅速に実施



災害現場のリアルタイムな情報提供



福井河川国道事務所【概要】



事務所所在地

■ 国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所
〒918-8015 福井市花堂南2丁目14-7
TEL(0776)35-2661(代表)

- | | | |
|---|---|---|
| <p>1 国道8号
福井国道維持出張所
〒918-8239 福井市成和1-3117
TEL.(0776)27-1707</p> | <p>3 国道8・27・161号
敦賀国道維持出張所
〒914-0057 敦賀市開町3番28-1号
TEL.(0770)22-5166</p> | <p>4 国道158号(中部縦貫自動車道)
嶺北国道維持出張所
〒910-1211 吉田郡永平寺町法寺岡6-11
TEL.(0776)63-7200</p> |
| <p>5 九頭竜川・日野川
九頭竜川出張所
九頭竜川鳴鹿大堰管理所
〒910-1211 吉田郡永平寺町法寺岡5-26-1
TEL.(0776)63-7100</p> | <p>6 北川・遠敷川・国道27号
嶺南河川国道維持出張所
〒917-0241 小浜市遠敷1-101
TEL.(0770)56-1764(河川関係)
TEL.(0770)56-1617(道路関係)</p> | <p>7 大野油坂道路(工事監督)
大野監督官詰所
〒912-0085 大野市新庄13-8-3
TEL.(0779)65-5854</p> |

組織と担当業務

※R8.4.1現在

- 職員数 104名(技官:70名、事務官34名)
- 13課・5出張所・1管理所・1詰所



組織と担当業務の詳細

管理区間

水系	内訳	管理延長
九頭竜川水系	九頭竜川(31.2km) 日野川(11.0km)	42.2km
北川水系	北川(15.2km) 遠敷川(1.3km)	16.5km

路線	延長(km)	区間	管理出張所
国道8号	100.3	あわら市牛ノ谷～南条郡南越前町大谷(63.7km)	福井国道維持出張所
		南条郡南越前町大谷～敦賀市新道(27.8km) 敦賀市田結～敦賀市小河口(7.7km) 敦賀市樋の水町～敦賀市岡山町(1.1km)	敦賀国道維持出張所
国道27号	71.0	敦賀市岡山町～三方郡美浜町気山(15.8km)	敦賀国道維持出張所
		三方上中郡若狭町気山～大飯郡高浜町六路谷(55.2km)	嶺南河川国道維持出張所
国道161号	8.4	敦賀市疋田～敦賀市山中	敦賀国道維持出張所
国道158号	46.1	中部縦貫自動車道大野油坂道路(20.3km) 中部縦貫自動車道福井市重立町～大野市横枕(25.8km)	嶺北国道維持出張所
計	255.8		

福井河川国道事務所
未来再生
プロジェクト

「データ」で、
一歩先の課題を発見

「商品」よりも、
「サービス」の提供を

「地域のための」仕事を
「地域と」

1

2

3

》》》 仕事の「価値」を上げる

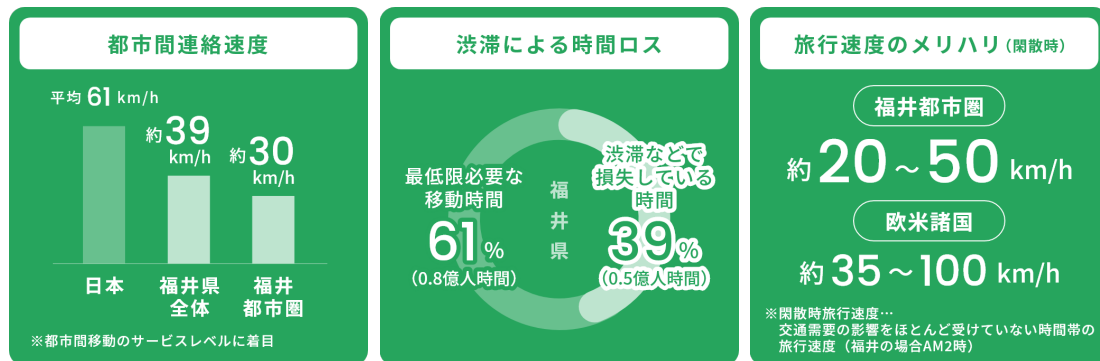
福井県の社会課題



河川の地域課題



道路の地域課題



課題の詳細は、
リニューアルした、
事務所HPから
確認できます。





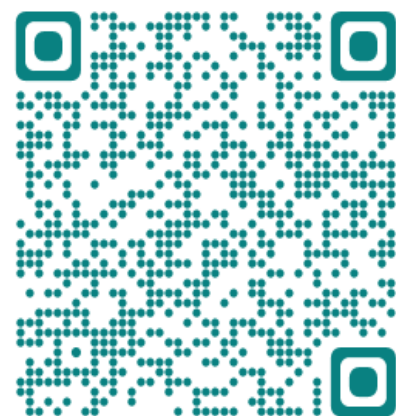
事務所ホームページ

2025大規模リニューアル



事務所公式X

管内フォロー数No.1



事務所公式YouTube

職員手作りYouTube

フォローする

